

## 春岡村の伝説（実話）

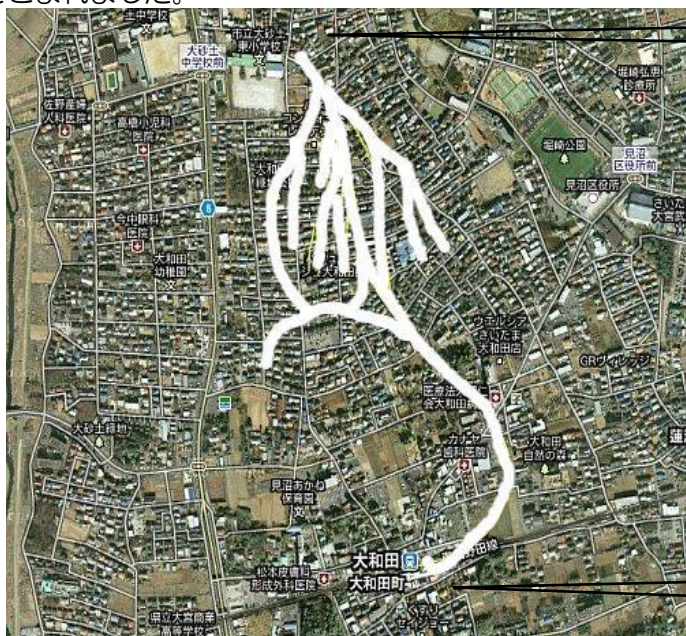
### ●幻の機関車引込線●

JR東大宮駅から第二産業道路を南下していくと、右手に大砂土中学校、左手に大砂土東小学校があります。この大砂土東小学校から東武野田線の大和田駅の間、大和田二丁目に太平洋戦争末期、機関車の引込線が引かれました。

昭和十六年十二月八日真珠湾攻撃で始まった戦争は、昭和十九年十月頃になると本土決戦が予想されるようになります。十一月二十四日には、マリアナ諸島よりB29が東京を初空襲します。軍の物資や兵士の輸送に欠かせないD51などの機関車は、アメリカ軍の攻撃対象となりました。そこで、軍と東京鉄道局は「新鶴見」「大宮」「小山」「宇都宮」などの機関区で機関車を疎開地させることにしました。大宮機関区では大和田がその疎開地として選ばれました。

かつて大宮公園から大和田二丁目周辺は、雑木やアカマツの林が広がり「大宮の軽井沢」と呼ばれていました。軍はこの森に目を付けたのです。ここは空爆から機関車を隠すのに格好の場所でした。工事は久喜鉄道大隊一個中隊があたりました。当時の様子を地元の方が調査した資料が図書館に寄贈されています。それによると…

…大和田駅から伸びた線路は、大和田病院付近から民家の庭を通り、北側のアカマツ林の中に引きこまれました。



大砂土東小学校

軍事機密だったのか大宮市史などにも記録はなく、地元の古老だけが知っているまさに幻の引込線です。昭和22年にアメリカ軍が撮影した航空写真には引込線の跡がはっきり写っています。この地図はその跡を現在の地形図に転写したものです。引込線の遺構(?)は現在一か所だけコンクリート基礎がわずかに遺っています。

東武野田線：大和田駅

### 【自宅の庭に引込線が引かれた家のご家族の証言】

鉄道工兵隊という軍の兵隊がやってきて、私の家の庭や敷地になんの了解の書類もなく「お国のために」ということで、有無を言わせず線路の敷設が強制執行されました。軍隊の人々はコウリヤンを食べていました。恐らく傭兵でしょう。駅から家まで線路が大きくカーブしているので、機関車が通ると線路と車輪が軋んでキーキーと音を立ててやってきました。石炭の灰を落す穴まで作って、石炭の燃えカスを時折落としていました。

夜になると、三重連あるいは四重連の機関車が樹齢百年を超す鬱蒼としたアカマツ林の中へ吸い込まれていき、そのカマの火を消すわけにもいかず、夜通し火を焚いて夜を過ごし、朝ともなると大宮の操車場へと出勤して行きました。夜通し焚く火をめぐりて敵機の空襲がなかったほうが不思議なくらいで、非常に恐ろしかったです。

戦後、用済みの線路の撤去は、住民が総出で手作業にて行いました。貨車が置き去りにされていて、枕木などが積んでありました。物がなかった時代でしたので、薪として、いつの間にか持ち去られて無くなっていました。

(平山由喜) (図書館寄贈資料『東武線大和田駅の機関車引込線』板倉雅宣)